総務文教厚生常任委員会所管事務調査中間報告書

１　調査事項
（１）上士幌高校の振興の調査に関すること　　（令和２年９月２５日承認議決）

２　調査年月日
（１）令和２年１０月　６日　　振興策の取り組み状況について教育推進課から聞き取り
（２）令和２年１０月１４日　　上士幌高等学校の視察及び意見交換会
（３）令和２年１２月　８日　　報告書の内容精査
計　３　回

３　調査地　議場、委員会室、上士幌高等学校

４　説明員　小堀教育長、木下教育推進課長、鳥本主査

５　調査内容
（１）上士幌高等学校振興策の取り組み状況について（教育推進課との協議）

① 上士幌高等学校振興会の活動について
令和元年度の総事業費３７，５８１千円を、振興策として通学の全額補助、制服代補助、就学援助、修学旅行代金の補助、進学に係る奨学金、各種検定料補助等に実施しているとの説明があった。

② 十勝地区における生徒の進路動向について
高校進学者のうち、音更町、士幌町、上士幌町、芽室町、幕別町の旧十勝第１学区から帯広市内の高校へ６４０名が進学し、一方、帯広市から５町の高校へは２６３名が進学している状況となっており、少子化が進む中で郡部校が厳しい現状にあるとのことであった。また、上士幌高等学校合格者のうち、地元生徒の入学率が低い状況にあるとの説明があった。

③ 上士幌高等学校の維持について
高校の二間口維持に向けては、他町村の保護者などへの周知と理解が進み、現状は二間口維持につながっているが、進学、就職等の状況が地元生徒、保護者へ十分に伝えきれていない面もあることから、入口（入学）時と出口（卒業）時の特色化、魅力化をどう高めていくかが課題であるとの説明があった。

（２）上士幌高等学校の視察及び学校長との意見交換会について

① 習熟度別授業の実践について

上士幌高等学校訪問では、始めに渡邊邦夫校長の案内で習熟度別授業を実践している数学の授業（３クラス）を見学した。

現在行われている習熟度別授業は、生徒の理解度に合わせたカリキュラムを組むことができ、学習意欲の向上につながっているが、本町からの人材支援により実施できているとの説明があった。

生徒は、教師の指導に対し熱心に向き合っており、積極的な面を感じとることができた。

② 高校の教育目標と入学者の確保について

令和２年度「学校経営シラバス」に沿って、教育目標を「未来を切り拓く人間性豊かな人を育てる」とし、目指す学校像として、長期は「十勝管内北部小規模校の準進学校化」、短期・中期は「国公立大学への進学実績の向上」「地域とともにある学校」「部活動の活性化」「二間口の維持」としているとの説明があった。

地元入学者が少ないなどの課題に対し、その対策として、振興会の協力によるプロモーションビデオの制作、中学校の進路指導教諭への直接的なアプローチなど取り組みも紹介された。

6　振興策への要望について

① 習熟度別授業の拡充と人材支援について

習熟度別授業は、現在数学で実施されているが、今後は、英語の授業でも実施したいと考えていることから、引き続き、町からの人材支援の拡充の要望があった。

② 部活動の充実に伴う人材支援について

高校の魅力化の１つとして熱気球部がある。クラブ顧問として活動に意欲を持っている教員はいるが、現状は、熱気球ライセンスがないこととから、活動が制限されているので、この課題を解消できるよう人材育成に協力していただきたいとの要望があった。また、近年は、クラブ活動の充実として、個人競技であるバドミントンの強化にも力を注いでいるが、学校内に経験のある指導者がいないことから、地域の指導者の協力を頂きたいとの要望があった。

③　ＩＣＴ環境整備の支援について

高度情報化に対応した、ＩＣＴ環境整備への支援についての要望があった。

④ 上士幌高等学校の魅力発信について

生徒自身が地域に赴いたり、マスメディアを利用して、現在の高校の状況の発信

に努めているが、学校の魅力が向上していることを、行政側からも発信に協力を頂きたいとの要望があった。

7　町への提言

今回の調査については、上士幌高等学校に対する来年度以降の短期的な振興策の実施状況や現場の要望などを中心に調査を行った。

総務文教厚生常任委員会としては、上士幌高等学校が地域の学校として高度な普通教育や専門教育を施す機関として重要な位置づけにあることから、少子化が進む将来においても、安定的に二間口維持できる高校となるよう、支援を行っていく必要がある。このような認識の上で、上記の要望を出来る限り振興策に反映できるように望むものである。

また、上士幌高等学校の存続を考えた場合、高校が目指す、地元入学率の一定数の確保による地域連携特例校や国が進める普通科高校の再編に対する学校づくり、全国からの生徒募集など、多岐にわたる選択肢を検討していく必要があるとともに、その施策を実現するための支援を行っていくことになることから、上士幌高等学校の存続に向けた中・長期的な調査を引き続き行っていく予定である。